

# 史料にみる茨木城（補遺）

木村 健明

## 1. 補遺作成の経緯

昨年度に『史料にみる茨木城』で史料の集成・提示を行った（木村 2022）。

その後、遺漏していた史料が複数確認できたことから、今回補遺として提示する。ただし、紙幅の都合上、表で記すのみとする。

この他、今回表中には含めていないが、『中川史料集』に、中川清秀の事績が記されている。この中で永禄12年～天正9年にかけて、茨木に関する記述が複数認められる。

同書は中川清秀に関する基本文献とされるが、近世岡藩の「藩史」として編纂された記録であり、中川清秀の200回忌にあたる天明2年（1782年）から編纂されたものである。

郡山合戦（白井河原の合戦）が中川家の立身のきっかけとなったと岡藩では重要視されていたが、その年代を誤っているなどのミスも認められ、取り扱いが慎重を要するとされる（馬部 2016・中西 2019）。

## 参考文献

- 北村清士校注 1969『中川史料集』新人物往来社  
 木村健明 2022「史料にみる茨木城」『茨木市立文化財資料館 館報』第7号 pp. 46-55  
 近藤出版部 1902『改訂史籍集覧』第十三「足利季世記」  
 東京大学史料編纂所 2001～20『後法成寺関白記』一～三  
 中西裕樹 2019『戦国摂津の下剋上 - 高山右近と中川清秀』戎光祥出版  
 奈良女子大学 1991「享禄天文之記」『平成2年度 奈良女子大学教育研究内特別経費（奈良文化に関する総合的研究）報告書』  
 馬部隆弘 2016「織豊期の茨木」『新修茨木市史』第二卷通史II 茨木市 pp. 2-55  
 臨川書店 1990『歴代残闕日記』第27冊「惟房公記」  
 和田英道 1983「尊経閣文庫蔵『不問物語』翻刻」『跡見学園女子大学紀要』第16号 跡見学園女子大学 pp. 61-90

表1 茨木城関係史料補遺

番号	年号	月日	文書名	内容	出典	備考
1	永正2年 (1505年)	—	『不問物語』 「上9 畠山両家暫時和睦之事」	細川政元による畠山義英・畠山尚順攻めに摂津の諸侍が動員される	和田1983	
2	永正3年 (1506年)	11月15日	『後法成寺関白記』	翌日、將軍足利義澄が細川政元を連れ戻すために茨木へ出立する。16日に下向し、27日に京都へ戻る。	『後法成寺関白記』 一	
3	永正6年 (1509年)	10月30日	『後法成寺関白記』	茨木弾正左衛門尉が申請した御教書に袖判を加える	『後法成寺関白記』 一	
4	永正8年 (1511年)	7月13日	『不問物語』下14 「泉州深井合戦事」	摂州上下郡の池田・伊丹・三宅・茨木・安威・福井・太田・入江・高槻等をはじめとする細川高国方が二万人余を率い、細川澄元方と和泉国深井で合戦を行うが、敗北する	和田1983	
5	永正17年 (1520年)	閏6月 19日	『後法成寺関白記』	茨木 瓜一蓋を進上する	『後法成寺関白記』 二	
6	大永3年 (1523年)	正月7日	『後法成寺関白記』	茨木 人日祝に近衛尚道を訪問する	『後法成寺関白記』 三	
7	大永7年 (1527年)	2月	『足利季世記』 「桂合戦の事」	細川高国方の摂津国上郡の諸城（芥川・太田・茨木・安威・福井・三宅）が落城する	『改訂 史籍集覧』 第13冊	
8	天文元年 (1532年)	11月23日	『足利季世記』 「所々一揆起ル事」	摂津上郡の武士衆が団結して、富田道場などを焼き討ちする	『改訂 史籍集覧』 第13冊	
9	享禄2年 (1529年)	正月11日	『今西家文書』86 「神供西方米銭毎月取納帳」	「茨木次郎三郎方」がみえる	『春日大社南郷日代 今西家文書』	
10		正月15日	『後法成寺関白記』	茨木父子 人日祝に訪問する	『後法成寺関白記』 三	
11	享禄3年 (1530年)	12月30日	『後法成寺関白記』	茨木又三郎来る	『後法成寺関白記』 三	
12	天文10年 (1541年)	10月9日	『惟房公記』	茨木四郎右衛門が夜に万里小路惟房を訪問する	『歴代残闕日記』 第27冊	
13	天文16年 (1547年)	4月頃	『享禄天文之記』	畠山政国・細川晴元が茨木城に入り、細川氏之が三宅城を攻める	奈良女子大学1991	